石家庄市語学研修報告書

氏名	宮島朝香
研修先	河北師範大学　国際文化交流学院
研修期間	2024.10.22～2024.12.27

●授業

1 コマ 90 分の授業が週に 10 コマありました。私のクラスメイトはインドネシア、スーダン、ロシア、エジプトの学生でした。共通言語は中国語です。中国にいながら授業を通じて他の国についても知ることができる、いわば一石二鳥の環境でした。

●宿舎の環境

宿舎は 12 階建てです。 1 階のフロントに係の人がいるので、シャワーのお湯が出ない、鍵の調子が悪いなど困ったことがあれば相談できる環境でした。宿舎のエントランスは顔認証システムが使用されており先進的でした。私たち研修生の部屋は 8 階にあり、それぞれ二人部屋を一人で広々と使わせていただきました。宿舎の 12 階には共用のキッチンがあります。長期留学生の中には自炊している人も多かったです。

▲クラスメイト、担任の先生と

▲宿舎外観

▲部屋の様子

▲共用キッチン(一度だけここで卵焼きを作りました)

●大学
中国の大学は日本と比べキャンパスが広大です。私は使用しませんでしたが、大学内の移動にシェアサイクル、シェア電動バイクを使う学生が多いです。敷地内には博物館があり、動植物の標本や、河北省の歴史に関する展示を見ることができます。

▲キャンパス内の博物館

▲大学のシンボル、“时光塔”（一番右のタワー）

●食生活
朝は部屋で簡単に済ませ、昼と夜は食堂か近くの飲食店街で食べていました。
10 元～20 元（1 元≒21.5 円で計算して 200 円～450 円ほど）で日本の約 1.5～２倍くらいの量の食事が提供されます。日本と比べて果物が手頃なので、よく買っていました。
「食は中国にあり」という言葉のとおり、多種多様でおいしい料理があります。鴨の血を固めたもの、鶏の足、タニシ麺など、日本では見かけない料理も…

▲白身魚のスープ

▲水餃子

▲宿舎から歩いて 5 分の果物屋さん

●決済方法
お会計の時、専用のアプリで QR コードを読み取ってお金を払います。宿舎にある共用の洗濯機さえも QR コードによる決済だったことが驚きでした。買い物で現金を出したところ、店員にお釣りがないと言われ、代わりに「お釣り相当額の商品」をもらったことがありました。店側は客の現金支払いを拒んではいけないという規則があるそうですが、実際は現金支払いに対応できないお店が多いようです。

●ネットショッピング
専用アプリを使用します。物流は速く、注文日から 3、4 日程度で届きます。キャンパス内に配達物置き場があり、そこに自分で取りに行きます。アプリに通知された番号をもとに小包を探し出し、それに貼られたバーコードと、アプリ内の個人識別コードを一緒にスキャンすると持ち出すことができます。

●邯鄲への参観
「当代中国」という授業の一環で、石家庄から高速で２時間半ほどの邯鄲へ出かけました。目的は農業実験ステーションの見学です。この実験ステーションでは、節水技術や有機肥料を使って効率良く食糧（トウモロコシ、小麦）を増産するための研究が行われていました。

▲中国の農村の入口

▲農業実験ステーションにて

●河北博物館
古代から近現代まで時代ごとに分かれた常設展があります。中山国(現在の河北省中南部）の王のものである金縷玉衣（皇帝や王が亡くなった後に着る葬服）をはじめ、興味深い文化財が展示されています。

▲河北博物館の外観

▲金縷玉衣

●課外活動
琴、お茶、切り絵、西遊記の人形づくり、河北美術館参観など、多様な活動を手配していただきました。中国の伝統文化や芸術に触れることができ、有意義な時間となりました。

▲琴体験

▲お茶文化体験

●正定古城

1600 年の歴史を持つ城壁に囲まれた観光地です。千手観音像、仏像、輪藏（＝お経が収められた回転式の本棚。これを回すと読経 1 回分とみなされる）などの文化財を見学できます。中国では漢服を着て観光しながら写真を撮ることが流行っており、漢服レンタルのお店があちこちに見られました。

●西安旅行

新幹線で約 3 時間の西安市に連れて行っていただきました。およそ 2200 年前に作られた兵士の像が整然と並ぶ「兵馬俑」は圧巻です。他にも回民街（イスラム系少数民族の飲食店が集まる観光名所）や西安碑林博物館（書道の拓本の博物館）を見学しました。

▲正定古城にて（石家庄）

▲書画用品を売る店（西安）

●大学での印象深い出来事

食堂の利用方法が分からず、近くにいた女子学生に訊ねたところ快く助けてもらえました。別れてから改めて感謝のメッセージを送ったところ、返信の中に次の一文がありました。「贈人玫瑰，手留余香（バラの花を人に贈ると、自分の手にもかぐわしい香りが残るものです」　これは私が研修中に出会った、忘れがたい言葉の一つです。

●中国から見た日本

日本文化、特にアニメや特撮ヒーローは中国でも人気です。ドラえもん、クレヨンしんちゃん、ジブリなどのキャラクターは街のあちこちで見かけます。また、とある飲食店の店主は、私たちが日本人と分かってから興味津々な様子で親しげに話しかけてきてくれました。

一方、12 月 13 日には大学生の知人が微信のモーメンツ上で南京事件について投稿しているのを見かけましたし、河北博物館にある 9 つの常設展のうち一つは抗日戦争をテーマとしています。やはり歴史面ではデリケートな問題が両国の間に横たわっていることを再認識しました。

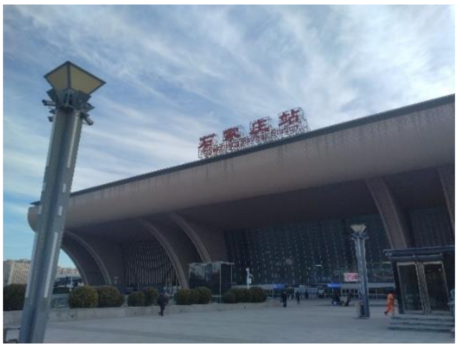
◀ 大学の飲食店の壁。香港スターなどに混じって、ドラゴンボールや犬夜叉、スラムダンクなどのポスターも

●終わりに

研修中に知り合った留学生仲間の多くは、1 年以上の長期留学生です。そんな彼らと異なり、私たち長野市研修生は滞在期間が 2 カ月であるため、その短さに驚かれることもしばしばありました。しかし、多くの人に出会い、多くの物を見て、様々なことを考えさせられたという点では、長期滞在にも引けを取らない経験ができたと考えています。

研修参加にあたりサポートいただきました長野市、石家庄市の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。今後も、両市の友好関係に貢献できる機会がありましたら、ぜひ関わらせていただきたく存じます。この度は貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。

▲屋台と人でにぎわう石家庄の夜市



▲石家庄駅